

発言通告書の要旨(一般質問)

令和5年第4回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
12/6 (水)	1	21 為広員史	1、宝山湖ボールパーク整備状況について	新しく観覧席を設置したが日陰が無く夏場暑いのではないかと。また男子用のトイレが外部から丸見えである。なんとかならないかを聞く。
			2、防災行政無線整備後10年以上経過したが現状について	整備後10年以上経過したが整備状況等今後について聞く。
			3、市営住宅の今後の在り方について	先般関係者を集めて市営住宅移転促進事業について説明会がなされたとあるがその概要及び市営住宅について今後の整備方針を聞く。
			4、全国で問題になっている不動産の所有者の不在について	全国で九州くらいの広さの不動産の所有者が確認できないと聞くが三豊市の現状について聞く。
	2	4 三谷正史	1、「ふれあいパークみの」及び周辺施設について	6月一般質問での質疑応答を受けて。
			2、公立病院の経営強化プランについて	公立病院の経営形態の違いについて。
	3	16 込山文吉	1、スポーツコミッションの設立について	地域スポーツコミッションとは、「スポーツと景観・環境・文化などの地域資源を掛け合わせ、戦略的に活用することでまちづくりや地域活性化につなげる取り組みを推進する、地方公共団体とスポーツ団体、観光産業等の民間企業が、一体となった組織」のことを指している。スポーツツーリズムのみならず、まちづくり・地域活性化の意味からもスポーツコミッションの設立をすべきと考えるが、市長の考えを聞く。
			2、放課後改革への現状課題について	部活動の地域連携や地域スポーツ・文化クラブ活動移行に向けた環境の一体的な整備が、スポーツ庁・文化庁の来年度方針と予算請求に挙げられている。 放課後改革を目指す三豊市。地域クラブ活動への移行に向けた実証事業に応募するべきではないかと、考えを聞く。
			3、公共工事の平準化の進捗について	公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律において平準化について規定され、平準化の取り組みが地方公共団体等の努力義務とされている。 債務負担行為の活用などによる平準化に向けて、より具体的な検討を進める、と答弁されている。 進捗状況と来年度予算にどのように反映されるのか。ゼロ債務の活用についての考えと併せて聞く。
			4、JR高瀬駅トイレ改修の進捗について	都市構造再編集集中支援事業として、三豊市による高瀬駅トイレ改修を提案した。 仮設公衆トイレの設置を検討し、JRとの協議が整い次第、都市再生整備の計画に含めまして、トイレの改修のほうも考えてまいりたい、との答弁であった。 その後の進捗状況と課題について聞く。
	4	3 瀧本哲史	1、豊中町の小学校の統合について	統合するにあたって (1)通学路の整備計画 (2)跡地の利用方法 (3)その他の問題 以上、3点について問う。
			2、みとよ市民病院の今後について	前回の9月議会でも質問した、経営面の問題に対する改善の進捗状況やこれからの対応策について問う。

発言通告書の要旨(一般質問)

令和5年第4回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
12/6 (水)	5	1 西山彰人	1、公契約条例の制定について	先日、連合香川から公契約条例制定の申し入れがあったが、その対応を伺う。
			2、三豊市の労働者の低賃金解消に向けての対応について	(1)総理大臣さえ労働者の低賃金を認め、賃上げを言っているが、三豊市で対応できることをしてほしいがどうか。 (2)最低賃金の改定があったが、元請け企業の協力がなければ賃上げは難しいと聞くと、市の見解を伺う。
			3、市民の意見反映について	学校の統廃合について「市民の声をよく聞き、強行はしない」の方針は変わっていないか。
12/7 (木)	6	5 金子辰男	1、三豊市の経済の好循環について	今、住民は苦しい生活を強いられている。長い間、給料が上がらないばかりか物価が高騰して、消費税もあり、社会保険料も上がり、使えるお金が少ない状態が続いているように思われる。我々の三豊市も例外ではない。その中で、いかに地域活性化を、経済循環を図っていくのか。 先般、視察に行った明石市、人口30万と三豊市とは規模も全く異なるが、学ぶべきところは多々あるように思われた。 例えば、10年連続の人口増加、おむつ定期便、18歳までの医療費無料、第二子以降の保育料無料、中学校の給食費無料、公共施設の利用無料などよりきめ細やかな支援が行われていた。三豊市の現状はどうなのか。 三豊市の人口、出生率の推移はどうなのか。 市の主要産業である農業、耕作放棄地の推移、就農者の現状はどうか。 今の現状脱皮についての考えを伺う。
	7	20 詫間政司	1、市民病院と地域産業(資源)の連携について	三豊市立みとよ市民病院の開院から1年半が過ぎた。市民の生命と健康を守るために、健全経営に向け運営体制の構築に努めていると思う。今、国では24年度以降の医療・介護・障がい者支援のトリプル同時報酬改定が議論されている。自治体病院である、みとよ市民病院もご多分に漏れずその都度の診療報酬により経営状態に、少なからず影響を被ると予測する。市民病院が、それに翻弄されることのない独自の収益事業を、市の産業施策と連携して構想することによって、このまちになくてはならない自治体病院であることの存在感を示すべき時が来たと考える。市民病院を核とした地域産業(資源)の連携による、地域経済活性化と市民病院の健全経営に向けた取り組みの可能性を問う。 (1)地域観光資源やゲストハウス、スポーツ施設等を活かした医療ツーリズム (2)包括連携協定を締結した教育機関との共同による、摂食障害嚥下食をはじめとする、薬用作物を取り入れた薬膳の医療・介護食等の開発と提供 (3)ベーシックインフラ活用による、治癒後の日常生活を支える事業展開 3点の角度から、医療機関の存在価値を最大限に活用した、地域活性化と産業政策の考えを問う。
	8	10 近藤 武	1、地元企業優先発注について	現在多くの市町において地元企業の育成及び地域経済の活性化を図るため、地元企業優先発注等に関わる実施方針を定めている。本市では地元企業の受注機会の拡大を図る配慮はどのようにされているのか。また、工事を受注した業者が下請業者を選定する場合に、市内業者を優先選定するような指針についてどうなっているのか問う。

発言通告書の要旨(一般質問)

令和5年第4回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
12/7 (木)	9	6 湯口 新	1、観光の産業化を進めるために	観光を産業化するためには市が策定する「観光基本計画」を、事業者や関係者、そして市民がまず「認識」し、「理解」し、そして「行動」する必要がある。そのための施策はあるか。 観光基本計画を実際の行動につなげてもらうためには、具体的な「観光戦略」や、地域が提供できる価値を明らかにして事業者が地域の強みを理解、共有、活用するための「インタープリテーション全体計画」の策定が有効であると考え。まずは荘内半島ゾーンからでも観光戦略やインタープリテーション全体計画を策定してはどうか伺う。
			2、重度心身障がい者にとっても住みやすいまちづくりを	市民から「重度心身障がい者にとっても、その保護者にとっても、もう少し住みやすくないか」という相談を受けた。そのうちのひとつは、18歳までは教育施設があるが放課後等での学童などの受け入れ先が少なく、また18歳以降はそもそも受け入れ先自体が少ない、とのことであった。市としての認識と対応策を伺う。 また「誰一人取り残さない社会」という言葉が広がり、障がいの有無にかかわらず地域で共に生きていく「インクルーシブ社会」の実現を、という認識は広がり始めたが、まだ社会全般に身体的や精神的な「障がい」に対する理解が不足している。理解を広めるための施策が必要だと考えるが対応、対策を伺う。
			3、AEDの整備について	体育施設等へのAEDの設置は必須であり、順次進めるべきである。考えを伺う。
	10	11 高木 修	1、国に対しての国道11号線渋滞対策要望について	特に朝夕のラッシュ時、国道11号線下勝間交差点から新名交差点にかけての渋滞が著しく、ある意味市民の生産性を阻害している。地元自治体として、4車線化など抜本的な対策を要望すべきと思うが、執行部の見解は。
			2、登山道や遊歩道の整備について	例えば立石山登山道や大水上神社遊歩道など、竹や雑木、あるいは倒木に阻まれて通行できない道がある。これらの道はどのように分類整理され、どこが主体となってどのように整備されるのか。
			3、まちの賑わい創出について	一昨年、高瀬町に米系ハンバーガーチェーンの店がオープンし、まちが賑わってきた。 同様に米系コーヒーショップチェーンの誘致などにも成功すれば、相乗効果が生じると思うが執行部の見解は。
	11	7 田中達也	1、公共施設予約システムの導入について	令和4年第4回定例会の一般質問で取り上げた際、「社会教育施設やスポーツ施設のうち、多様な利用実績がある施設を選定し、試験的な導入から始めたい」との答弁があった。その後、市民からの要望は件数も熱意も増してきている。1年が経過した現在の進捗状況と、今後の計画について問う。
			2、讃岐造船跡地の整備について	多目的広場として整備する方針とのことであるが、想定される用途と計画の進捗状況について確認し、先進事例を参考にしながら、整備方針の肉付けに係る認識を問う。
			3、投票環境向上に向けた取り組みについて	複数の議員からの一般質問が実り、令和4年の香川県知事選挙において、ゆめタウン三豊内に開設された期日前投票所は、次回選挙以降開設されないとのことである。その理由については理解を示すものの、投票環境向上の取り組みについては、一歩後退したと言わざるを得ない。 市民からは、この決定を惜しむ声と共に、投票所の雰囲気投票行動を妨げているとの声が聞かれるが、今後三豊市として投票環境向上にどのように取り組むのかについて問う。

発言通告書の要旨(一般質問)

令和5年第4回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
12/8 (金)	12	12 岩田秀樹	1、学校統廃合後のスクールバスの活用見通しと現状について	三豊市は、学校統廃合した場合に遠距離になった通学児童・生徒に対してスクールバスを活用しようと計画している。コロナ禍以来、タクシー、バスなどの運転手の不足が全国的に発生している。タクシーの場合、香川県の減少率は29%で全国ワースト2位である。労基法上は、8時間超えもみとめられているが、労働時間が7:00~22:00までの場合もあり、週間労働時間と休憩時間を把握することが必要だと考える。 少なくとも、1か月に1回、労働実態の把握を求めるべきではないか。
			2、豊中地区新設小学校建設について	転用した第1種農地の代替地を手当てする条件が付いていると聞いている。これについてはどのようにになっているのか。第1種農地の代替地をどのように考えているのか。 開校まで2年半、予定地は工事中に水があふれてくる心配があり、「水対策」を行う必要がある。これを考えると、工期が厳しいのではないか。経費をかけずに進められることが求められているのではないか。
			3、「三豊市学校再編整備に関するアンケート」結果について	10月に行われた、一般市民・保護者のアンケート集約ができています。このアンケートから「学校再編整備基本方針案」についての取り組み方針をお聞きする。このアンケートは、統合ありきの設問形式になって行政の姿勢がにじみ出たものである。9月に実施された「地域住民説明会」もあわせて、どのように参加者の声を聴いたのか。反対の意見を言う場がなかったため、比較的「統廃合反対」の意見が多かったと思う。どのように生かしていくのか。
	13	18 横山 強	1、ベーシックインフラ整備と後期基本計画について	(1)2億460万円の支出の無駄遣いの問題点等と成果が不透明な疑問点等広範囲に伺う。 (2)後期基本計画の問題点と疑問点等広範囲に伺う。
			2、契約について	(1)9月の一般質問で、12月に回答すると答弁した各課契約等の取り扱いについて問題点と改善点について管財課に対し、広範囲に伺う。 (2)市民病院の工事契約による請負業者・設計管理業者・CMIに対し、瑕疵責任等の対応を広範囲に伺う。
	14	15 水本真奈美	1、带状疱疹ワクチンについて	带状疱疹の発生率は50代から増加し、80歳までに3人に1人が痛みとかゆみを伴う带状疱疹に罹患すると推定され、治療後も約2割の方に長い期間、神経痛が残り、耳鳴り、難聴、失明などの後遺症を発症するといわれている。現在、带状疱疹予防接種は任意で行われているが、ワクチン接種費用の負担軽減のため、助成自治体は現在300を超えている。三豊市として市民の負担軽減とQOL(生活の質)を維持し、医療費抑制が期待できる。带状疱疹ワクチン接種費用の助成について考えを伺う。
2、防災減災対策について			(1)福祉避難所について①福祉避難所運営マニュアルの整備状況②福祉避難所への要援護者避難計画の状況③非常用電源や災害備蓄状況を伺う。 (2)災害時の給水体制について、まず①水道管の耐震化工事の進捗状況、②緊急貯水槽2基、緊急遮断弁付き配水池11か所、そして給水タンク26基等を利用した防災給水訓練の実施③給水車の導入について伺う。	

発言通告書の要旨(一般質問)

令和5年第4回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
12/8 (金)	15	13 丸戸研二	1、令和6年度からの施策の推進と組織体制	(1)行政改革への取り組み 三豊市行政改革大綱の実現にどう取り組んで来たのか。 令和6年度、7年度の位置づけをどう見ているのか。 (2)定員適正化計画 持続可能な行政組織とはどういうものなのか。 (3)地域課題への対応 地域の課題は変化しているのか。 (4)限られた財源と施策の遂行 事務事業の棚卸しが必要ではないか。
			2、いじめの撲滅に向けて	(1)社会問題化したいじめの状況 みんな知っている。しかし・・・ (2)三豊市におけるいじめの認知件数 三豊市における実態はどうなっているのか。 (3)いじめ撲滅に向けた体制と対応 現状はどう対応しているのか。 (4)いじめ撲滅には何が必要なのか。 いじめ撲滅に向けてどう取り組むのか。
	16	2 三木秀樹	1、過去の5年間の総括のもと今後の5年間(後期基本計画)を創っているのか	三豊市が誕生して18年が過ぎようとしている。この間、三豊市は10年単位で三豊市の「まちづくり計画」を創り、現在は2回目の10年間に 入って、その前半(5年間)を終え、来年から残りの5年間の新たな「まちづくり計画」(第2次総合計画、後期基本計画)を創り、推進していくこ とになっている。が過去5年間各部署で事業を展開する中で明らかになった課題・補強点・修正点等が後期計画に生かされているのか。歴 史的出来事、170万羽殺傷処分した鳥インフルエンザ、市内で7,823人以上が罹患した新型コロナ感染拡大の総括反省点は、後期計画 案には「見えない」。 ますます進む人口減少、超高齢化に沿った計画案か。耕作放棄地に絞って聞く。
			2、三豊市民は「ベーシックインフラ事業」 の効能を体感できるようになっているのか	昨年、9月政府が進める「デジタル田園都市国家構想」の交付金で、三豊市民の「幸福度を高める」ための事業(ベーシックインフラ)を2億 円投資して、半年間実施した(今年3月下旬まで)。 その事業による成果(データ)は、三豊市民のために生かされるのか。 具体的に耕作放棄地の何を調査し、その成果をどのように有効活用し、農業耕作者等に「受け入れられる」施策になるのか。市長に聞く。